

VIII-4

多発性骨髄腫に対するボルテゾミブ治療における薬剤師の関わり

○川原史子¹、大箭 彰¹、長谷川佳美¹、宗村素子¹、宮下理恵子¹、小出恵子¹、永高朋子²、石黒卓朗³、今井洋介³、広瀬貴之³、張 高明³

新潟県立がんセンター新潟病院薬剤部¹、看護部²、血液内科³

【目的】多発性骨髄腫に対するボルテゾミブ治療に薬剤師が関与し適正使用の推進を図る。
【方法】新潟県立がんセンター血液内科では平成 19 年 3 月より難治性多発骨髄腫患者に対しボルテゾミブの治療を開始し、平成 19 年 8 月現在 8 症例が治療中である。薬剤部では化学療法箋のレジメン登録と無菌調製及び入院化学療法時の薬剤管理指導を実施している。初期治療で重篤な有害事象を経験しなかった症例では平成 19 年 6 月より外来でボルテゾミブの投与を開始した。外来化学療法室専任看護師が有害事象をモニターするための、また患者が自宅で有害事象をモニターするためのチェックシートをそれぞれ作成し運用を開始した。【結果】登録された化学療法箋を使用することで記載ミスが軽減された。調製を薬剤部の安全キャビネットで行うことで清潔度の高い投薬が実施され医療従事者への被爆も防止された。入院患者に薬剤管理指導を行うことで、治療への理解が深まり有害事象発現回避への知識が習得された。定期的に患者を訪問し症状の把握をすることで有害事象をモニターし、対象療法の提案を主治医に行い症状緩和を図った。外来化学療法室看護師用がチェックシートと患者用有害事象チェックシートは順調に運用されており、得られた情報は外来化学療法の施行のために活用されている。【考察】薬剤師の関与はボルテゾミブ治療の安全性と実行率向上に貢献している。